

ロボカップジャパンオープン 2010 大阪

ジュニア部門大会運営報告書

2010. 6. 8 版

<大会基本情報>

150チーム355人の参加がありました。

チャレンジ (記号)	: チーム数 (人数)
サッカーAライト (SAL)	: 45 (107)
サッカーAオープン (SAO)	: 20 (46)
サッカーB (SB)	: 16 (40)
レスキュープライマリ (RP)	: 30 (46)
レスキューセカンダリ (RS)	: 18 (33)
ダンスプライマリ (DP)	: 14 (52)
ダンスセカンダリ (DS)	: 7 (31)
合計	: 150 (355)

<決定・伝達方法>

ジャパンオープンに伴う決定・伝達方法を下記のようにおこないました。

①各チャレンジ競技ルールの決定

各技術委員会で議論した内容を実行委員会で承認をもらうプロセスにより、参加者に公表する手順を踏みました。

②選抜について

ジャパンオープン開催の場所の面積からコート数を決定し、コート数からチーム数を決定しました。

③チーム割り当ての方法と伝達

各技術委員会でブロックの参加数に応じたチーム割り当てを決定し、各ブロック長からチーム割り当てを伝達してもらいました。

④スタッフ集めとルールの徹底

- ・各技術委員長にスタッフの人数を相談し、受付および本部の要員を加えました。
- ・大会前日にスタッフミーティングをおこない、打ち合わせおよびルールの解釈などを話し合う時間をとりました。

⑤全体的な議論の仕方、決定方法

- ・渉外担当が各チャレンジ専用のフォーラムを作成し、技術委員長と技術委員でルールの検討およびチーム割り当てについて話し合いました。
- ・各技術委員会で決定した内容を実行委員会（各ブロック長が参加）に提案し、決定しました。

⑥チーム番号の伝達

チーム番号については、チームが決定したカテゴリーから国内担当がチーム番号を決定し、各技術委員会のフォーラムで確認をおこなってもらい、ブロック長に伝達しました。

<運営全体について>

運営全般について良かった点、問題点、解決すべき課題をまとめます。

1. 良かった点

- ・各技術委員会のフォーラムを分離したので、専用で話げできた。
- ・技術委員会でまとめた意見を実行委員会に提案できる形ができた。
- ・ジャパンオープン参加のチーム情報の入力を Web でおこなった。
- ・チーム番号確認と伝達をフォーラムの機能を使って、カテゴリー別におこなった。

2. 問題点

- ・ジュニアの専用事務局がないために、ジャパンオープンの準備とその広報に時間差があった。また、質問に対しての回答が的確におこなえていなかった。
- ・技術委員の人数の偏りが大きく、少ないところは話が進まなかったと感じている。
- ・技術委員長が本職などで忙しいときにサポートできる体制になっていない。技術委員長の負担が大きい。
- ・新しく活動に参加された方とすでに参加されている方との情報量の違いをうめることができていない。
- ・メンターと技術委員を兼ねている場合は、その方のスタンスが難しい。
- ・3つのチャレンジのスタッフの数に偏りがあった。
- ・サッカーはAとBと競技が異なり、ルールの検討などを平行しておこなうことが難しかった。
- ・スタッフの旅費などの支援が十分にできない。公的な機関の方は支援が難しい。
- ・ダンスはインタビューの時間があるが、サッカー、レスキューにはないため、車検を通ればよいことになる。

(国際担当からの海外チーム招聘に関しての振り返りと反省)

- ・あらためて、ジャパンオープンにおける海外からの参加チームの位置づけを明確にする必要性を感じます。海外枠を一定確保することは必須事項として大会運営を組み立てる時に考慮していただきたい。
- ・また、海外からのチームは不確定な部分が多いため、直前でキャンセルといった事態への事前の対策を、やはり当初から考慮していただきたい。(例えば地元枠をプールしておくなどして、大会には穴が空かないような工夫をするなど)
- ・スタッフからの指摘もありましたが、海外チームへの対応についても、運営者そして参加者がみんな受け入れるような心構えを、持ってもらえるように事前に参加者やスタッフにアナウンスをする必要があったと反省しています。
- ・今回、本当であれば、参加していただいた海外チーム全てに、日本の参加者の前で紹介をする機会を口頭プレゼンテーションの時に予定していましたが、限られた滞在日程を有意義に使いたいという希望から中国チームは先に会場を後にされてしまいました。この点、もう少し配慮ができたのではないかと(開会式の時に紹介をするなど)と反省しています。一方で、口頭プレゼンでの海外チームの紹介は、よい情報交換の場になったと感じています。

・以上を含めて、次年度以降、海外チームをよりよい形で受け入れて、よりオープンな大会にできればと考えています。

<ゼッケンについて>

- ・ゼッケンは400枚用意していただきました。次回以降再利用できます。
- ・差し込みのネーム紙がA5版であるため、次回以降準備の際に注意が必要。

<IDについて>

- ・IDフォルダは、1000個用意してもらい、参加者+メンター+付添者で700強を使用し、スタッフで120ほど利用しました。
- ・メンターと付添者を分けるために、メンター証に赤丸のしるしをはりました。
- ・関係者チケットは3日間で110枚程度だったと思います。
- ・こちらは、関係者証をつくっていただき、「2日」などの日付をいれて、前売券または当日券と交換していただきました。翌日は、前日の日付の入った関係者証と前売券または当日券ともってきていただき、「3日」の日付の入った関係者証と交換する形をとりました。正門から遠かったこともあり、当日券の販売ブースを設けていただいたことは非常に助かりました。

<駐車場について>

- ・一時乗り入れを含めて参加者の駐車場については、今後の課題としておきます。

<医務室>

- ・気温があがったこともあり、鼻血を出した子供が2人いました。
- ・1人は医師の方にわざわざ体育館まで来ていただきました。
- ・体調不良を訴えた子供も医務室までいってもらいました。
- ・簡単な応急処置ができるものはジュニアの本部にも必要かと感じております。

3. 次年度に向けて早急に解決しなければならない課題

- ・各技術委員会の委員長と副委員長の選出
⇒すでにサッカー、ダンス、レスキューで動いている。
特にサッカーは副委員長を2人にすることで対応する。
- ・各技術委員の増強
⇒サッカーに比べて、ダンスやレスキューの技術委員が少ない。選抜しているブロックは必ず出してほしい
- ・ジュニア事務局の設定（せめて専属の事務員が必要）
- ・各チャレンジでインタビューの時間をとる
- ・表彰式の段取りについて少々時間がかかり過ぎである。またチーム名を間違えられてしまうとせっかくの表彰式も残念なものになってしまうので、このような初歩的なミスが発生しないような仕組みを考える必要がある。

<各チャレンジについて>

サッカー、ダンス、レスキューの各チャレンジについて、良かった点、問題点、解決すべき課題をまとめます。

<サッカー>

1. 良かった点

・運営を支えてくれる技術委員が、必要に応じてフォーラムにて意見を述べてくれたので、様々な懸案事項をまとめることができた。

2. 問題点

・国際ルールの発表からブロック大会（ノード大会）までの期間が短い。

国際大会のカテゴリーが、ジャパンオープン及びブロック大会のカテゴリーに大きな影響を与えます。新たなカテゴリーの決定から大会実施日までの期間が短いと、運営に支障をきたすおそれがあるし、なによりも選手がカテゴリーに対応できない可能性がある。

・ブロック大会からジャパンオープンまでの期間が短い

最終ブロック大会からジャパンオープンまでは、現状では一ヶ月程であります。すべてのブロック大会が終了しないと、各ブロックへのチーム数割振りが最終決定できないため、選手への選抜連絡が遅くなる。

・各ブロックからの情報が遅い（または無い）ところがある。

各ブロックへのチーム数割振りなどは、各ブロックからの情報をもとに作られる。ブロックからの情報が遅いと、決定が遅れ、運営に支障をきたすことがある。

3. 次年度に向けて早急に解決しなければならない課題

・そろそろ、親ロボットへの本格的対応を考えてもよい頃かもしれません。

<ダンス>

1. 良かった点

①他のチャレンジに比較して少ないスタッフ数にも関わらず、大きな問題も無く、スケジュールも大幅に狂う事無く運営できた。

②スタッフのコミュニケーションが図れた。大阪のスタッフのご尽力により、様々な地域の方々とご挨拶&情報交換できたのはとても楽しく有益でした。

③参加者の中に交流の様子が見られました。他のチームのロボットに興味を持ち、技術的な説明を受ける姿や、場所の譲り合いなどコミュニケーションが見られた。

2. 問題点

【エントリーや連絡伝達の方法について】

①当日までの連絡ツールとして一般フォーラムがあるが、全参加者がフォーラムを定期的に見ているかが分からないので重要な連絡事項が参加者に伝わっているか不安である。ダンスチャレンジの様に参加チーム数が少ない場合、メールベースでの連絡も可能だが、サッカーやレスキューとなるとそれも難しい。ジャパンオープンのエントリーの際に、エントリーページ上もしくは返信メールなどでフォーラムがある事をお知らせする等、もう少し参加者にエントリーから大会参加までの流れや必要事項などが分かりやすくなる様にエントリーと連絡事項を含めてのシステム作りを整える必要があると感じる。

【ダンスチャレンジの問題点】

- ①今回のジャパンオープンでは当初24チームで考えていたが、海外チームの辞退と国内も1チーム辞退があったため、トータル21チームとなった。それでもパドック内は狭い状態で本来の24チームだったらトラブルが起っていたと予想される。
- ②他のチャレンジに比べ1チーム辺りの人数が多いことや、ロボットの数が多い（大きい）ため他のチャレンジと同じく1チーム1テーブル、椅子2脚を基準としたパドックのスペース配分は厳しい。年々メンバーやロボット数が増え、ロボットも巨大化し、小道具等も増えている傾向が見られる。ダンスチャレンジはルール上、ロボットの台数やサイズ等の制限がないため、安全かつスムーズに運営を行うためにはローカルルールで制限をかけるかパドックに十分なスペースを確保するかどちらかで対応する必要がある。可能な限り制限をかける方向での対応は避けたい。
- ③以上の事をふまえ、パドックのスペース、またステージに向かうための動線は十分なスペースが確保される必要がある。
- ④1日目のセッティング・2日目のリハーサルの違いについてよくわかっていないチームも多く、また舞台上でのセッティング時間があまりにも限られていたように感じた。
- ⑤グラーツでの世界大会では、上位3チームは「優秀チーム」として表彰されていた。また、それぞれのチームに自チームの採点結果を配布していたが、全体には公表していなかった。ダンスは競争競技ではないとするのであれば、そのあたりも考慮した方がよい。
- ⑥メーリングリストではあまりにも沢山の情報が流れるため、交通整理が困難だった。また、ダンスチャレンジは掲示板も発言者が限られ、あまり活発な意見交換は見られなかった。

3. 至急解決すべき課題

- ①技術委員内で一部の人間に負担が大きくなっている。今後委員長として手を挙げてくれる方が現れなくなってしまう可能性があります。各技術委員の役割や技術委員長の責任を明確にすると共に、一人の人に依存しない仕組みを作る必要がある。

<レスキュー>

1. 良かった点

- ・レスキュー実機リーグのご協力により、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門賞2チームおよびIRS 競基弘賞1チームを選出することができた。
- ・スタッフがかなり集まった。

2. 問題点

- ・レスキューBはジャパンオープン前に公募を行った、しかも直前になってしまったことが、混乱を招く一因になった。
- ・重複エントリーについては4月23日の時点で、一般のフォーラムにレスキュー技術委員会の回答を書き込んでいたので、見ることが出来る状態にはなっていた。全てのチームが読んでいたかは分かりませんが、レスキューAでジャパンオープンに出場するチームからも応募を受け付けていた。

3. 至急解決すべき課題

- ・正規の競技とデモンストレーション競技を同列に扱うかどうかということを考えないといけない。正規の競技であれば、重複エントリーは認めないで済みます。デモンストレーション競技は、新しく立ち上げるその年だけ開催されるもので、正規の競技にするためのフィードバックを得るため

のものです。これを単純に重複エントリーだから駄目とすることは難しい。サッカーGEN2のときは、ジャパンオープンに出場したチームからの応募も受け付けていた。

・公募方法に関しては、今回の反省を生かして、次回はみなさんが納得できる手順と時期を考えなくてはいけない。

公募のルール（正規競技用とデモ競技用、告知、審査、結果公表など）と・公募の時期

・Webページの管理に関わってきますが、どのページで告知や結果をお知らせするかなども決めていただけると、スムーズに処理ができるようになる。Webページは、複数人でコンテンツ管理をしたり、権限の管理が出来るCMSを使うようにしたほうがよい。

<交流競技会>

1. 開催基本情報

5月4日 10:00~14:00

参加 一般：8チーム 公式戦から：12チーム

28試合（4コート*7コマ）

※Ver Bでの交流競技会は、実施していただきましたが、未把握となっています。

2. 振り返りと反省

- ・今回は、ゼッケン着用で公式戦同様な審判体制で実施できました。
- ・審判団・受付スタッフの協力が不可欠でした。
- ・交流競技会参加者の一部の意見と、あるチームのブログに2重のエントリーサイトのことが問題になっていました。広報体制について今後の課題です。

<口頭プレゼンテーション>

1. 開催基本情報

5月4日14:00~15:30

参加8チーム

1. 将軍・・・・・・サッカーB（書類選考）
2. chitose・・・・・・レスキュー
3. ステッピー7・・・・・・レスキュー
4. HIBISCUS・・・・レスキュー
5. ブロックNO.1・・・・レスキュー
6. ラビリンス・コード・・サッカーB（書類選考）
7. Asagi the 3rd・・・・OB
8. Complubot・・・・スペイン

2. 振り返りと反省

- ・今回初めて、レスキューも口頭プレゼンをしていただき 大変有意義な時間を皆様で共有できたと思います。
- ・書類選考のチームがプレゼンをしてくれたことにより、選抜に対して公式性、透明性、妥当性が高まったと感じられました。今後、書類選考による選抜では、エキシビジョン参加でも、ジャパンオープンの際にできるだけ来てもらい、このような発表の機会を用意することは、選抜の透明性を確保する上でもよいと考えられます。次年度以降、参考になればと思います。

・また、偶然と思いますが、レスキューの3チームが、学会賞を受賞しましたので、結果的に受賞講演となりました。